

# 教へない教育

倉橋惣三

一  
教へない教育と云ふ妙な題を出しておきました  
私は、教育を三種に分けて、教へる教育、間接に  
教へる教育、それから教へない教育と斯く分けら  
れると思ふのであります。教へる教育と申します  
のは即ち普通にいふ狭い意味の教育のことであり  
まして、小學校以後即ち學校と云ふ所でいたしま  
す課業であります。其次の間接に教へる教育と申  
しまするのは、主として遊戯を利用して、子  
供の方では今先生に何か教はつて居る、課業を學  
んで居ると云ふやうな考は全く有らませんで、唯  
面白く遊んで居る間に此方から適宜の手段を施し  
て多少の教育的結果を生せしめると云ふのであり

ます。第三の教へない教育と云ふのは、妙に反語  
を用ひました様な言ひ方でありますが、是れは唯  
今申上げました二つの場合から推して考へますと  
直ぐ御分りになる事でありませう。即ち教へる方  
も其時、其場合に必ずしも今子供を教へて居るの  
だと云ふ明かな考は有たない、勿論子供の方でも  
今教育を受けて居ると云ふ考は少しも自覺して居  
らない場合でしかも大に教育に關係のあることで  
あります。今日は此第三の教へない教育と云ふこ  
とに就て少しく申上げて見たいと思ひます。  
教へない教育と云ふのは他の言葉を藉りて申し  
ますれば習慣を利用する教育であります。即ち子  
供が識らずに習慣を付けられると云ふことが

教へない教育の主旨であります。それならば子供の習慣と云ふことはどう云ふことかと申しますると、是れには已にいろ／＼の説明が付いて居りますが、私は之を三つに區別して考へたい。即ち動作の上の習慣、考への上の習慣、感じの上の習慣と斯う三つに分けて見たいと思ひます。普通子供に癖が付いたとか、或は子供には善き習慣を養はせなければならぬと云ふやうなことを申されます時には、大抵は此動作の上の習慣が主になつて居るやうに察せられるのであります。例へば朝早く起きる習慣を付ける、行儀宜く坐つて居る習慣を付ける、話をする時に妙な手付きをしない様な習慣を付けると云ふやうなのは多く動作の上の習慣であります。併し是れも實に大切なことであります。此他にも非常に大切な習慣があるのであります。第二の考への上の習慣と申上げましたのは子供の頭脳が算術に慣れて来る、英語に慣れて来る、

或は書取に慣れて来ると云ふ如き意味に於ける習慣であります。子供に學問をさせますには、子供に興へた學科や課業を丁度靴の中に何か入れるやうに、子供の頭脳の中に入れてしまふだけでそれで教育が出来たと云ふ譯ではありません。それも亦一方に於ては大切なことでありますけれども又一方に於ては子供の頭脳の働き方を學問の方へ向けることが大切なのであります。詰り遊び癖が付かずに夫々の學科の勉強癖をつけると云ふことが教育の主眼なのであります。第三のは感じの習慣、普通に道德的習慣と稱されて居る類のものが即ち此處で申上げる所の感情の習慣と云ふことになるのであります。

最初に申上げました動作の上の習慣と云ふことを他の言葉を以て平易に申上げますと、詰り御行儀と云ふことであります。其御行儀と云ふことを心理的に解釋して見ますと、詰り意志の修養に

なるのであります。きちんと一時間も坐つて居る時に疲れて来て足を横へ出したいけれども我慢して居るやうなことは、外から見ますれば行儀が善くなつたと云ふだけのことでありませうけれども、之を子供の心理の中に立入つて考へて見ると、詰り子供の意志がそれだけ強いと云ふことになるのであります。

處で行儀の習慣は初めは大抵いやなのを外から抑へられてするので後で褒美が貰へるとか、叱られるとか云ふやうな結果を考へてはいはゞ無理にして居るのであります。詰り躰けを外から受けたのであります。處が感じの習慣といふ方では外から力によるのではなく、内から、どうしても、せずに居られぬといふ心持を養はうとするのであります。即ち理屈は知らぬがどうも氣が濟まぬ、或はさう云ふ氣がしてならぬと云ふやうになるのであります。大人でも始終有ることではありますが、知識の

上では是れは善い、是れは悪いと云ふ區別は能く付いて居り意志の上でも可なり我慢する力がありましても、唯感情の上でどうも意志が鈍り知識が曇つて來ると云ふやうなことが常に有るのであります。又知識の上ではよく分らないが感情が屬ましてそれをすると云ふやうな場合も出て來るのであります。平常吾々の行つて居る行爲又子供が成長して後、世に處して行く一生の行路に感情の影響が中々重要な働きをするのであります。

扱てその大切な感情がどう云ふ風に吾々の生涯に影響して來るかと思ひます。先づ大きく考へて二つの働きをして居ると思ひます。一つは感情が禁止して居るのであります。例へば子供が相當の年齢になりまして外から誘惑を受けると云ふやうな時には、外から來る誘惑の力と云ふものは非常に強い、又自分もこれに従ひ易いやうな傾向がある、こればかりでなく誘惑するやうな人はなかなか

か巧いことを言つて口を極めて説きますから、誘惑される方では成ほど向ふの言ふ通りになつても悪い事でないのかも知れぬ、或は其方が宜いのかも知れぬと云ふ様に知識の上で欺される場合があるのであります。けれどもさう云ふ場合に感情が働いて居りまして、小さい時に母親から受て来たところのいろ／＼の感情の習慣と云ふものがあつて、どうもあの人の言ふやうにするのは氣が濟まぬ、成ほど是れは此場合では大した悪いことではないかも知れない、けれども、併し之に従つてはどうも氣が濟まぬ、何となく安心が出来ないと云ふ様な感情が働いて來る事があるのであります。もう一つは此感情が吾々を加勢することがあるのであります。多少話が外れますが、例を明かにする爲めに青年のことで申上げますと、青年の小説を読むのは害があると云ふことを種々申されます、又實際に小説が種々な害を與へることもある

のであります。善い小説は無論利益を與へます。が悪い小説を読んだ人がどう云ふ風に害を受けるかと云ふことを考へて見ますと、多くの人は小説に依つて悪い事を覺えるから悪いといひます。假令ば、甚だ下等な例であります。小説を讀んでから泥坊を始めた、或は小説を讀んでから汚い行を始めたと云ふやうなことが、罪人を調べますと幾らも材料が擧つて居ます。さう云ふ風に小説の中に書いてある事柄を讀んで今まで知らなかつた事を覺える、これでありましてから小説は非常に害があると云はれて居ります。成ほど是れも大に心配しなければならぬ要點であります。さう云ふ風に今まで知らなかつた悪い事を覺えると云ふやうな知識の上の働よりも、寧ろ感情の上で以て悪い小説を讀んで居る内に、其惡事に對する憎惡の感じが鈍つて來るのであります。即ち今までに泥坊のことなどは非常に悪い事だ、泥坊と云ふもの

は實に厭やなものだ、泥坊が何故厭やか悪いかと云ふ議論はしなくても、何しろ厭やだ悪い事だといふ考をもつて居る。處が其人が泥坊のこの書いてある小説を幾度も讀んで居ると云ふと、成ほど知識の上では泥坊するのは宜くないと云ふ判断は變はらないけれども、感情の上では習慣が付いて來てそんなに悪い事だと、云ふ感じが滅じて來るのであります。それと同じやうに子供の感情の養成をなす時分に若し悪い習慣でも付きますと云ふと、大きくなつてから、此事は悪い事であると知識の上で合點致しましても、併しどうも自分の感情がそれ程にそれをいやだと思はない様な状態になるのであります。例令ば吾々は悪臭のある油などを嗅ぎますと厭やな感じを起す、之を嗅げば毒であると云ふことは知らないが、何しろ厭やだと云ふ感じが鋭く起つて來る。所が段々其臭に慣れて、即ち其臭が起す感じに慣れて來ると、此油

は臭い、有毒だと云ふことを知つて居ても、それ程に厭やでなくなつて來ると同じであります。昔から朱に交はれば赤くなる、悪い友達を避けよと云ふことを言ひますが、成ほど白い糸が朱に交つて居れば赤くなるかも知れませぬ。吾々も悪い友達に交つて居ればそれに倣つて悪い事をするやうになりませう。けれども假に白い糸が赤い糸に染る迄に至らないとしても、即ち吾々が悪い事を倣はないとしても其悪いと云ふことに對する感じが非常に鈍つてくる事と云ふことは甚だ怖ろしいこととであります。私共の友人に罪人の研究を専門として居る人がありますが、其友人の話に泥坊を幾度もして監獄に出たり入つたりする者でも悪い事だといふことは實に能く知て居る。けれども其人達の中には、どうも悪いと云ふことは能く承知して居りますが、是れは私共の仕事でありますから出てからもやるかも知れませぬと云ふのがあるぞ

うであります。即ち人の物を盗む事の悪いと云ふことは知つて居るけれども、幾度もやつた結果感情が悪事に慣れて、そんなに悪い事と感ずる力が自然鈍つてしまつて居るのであります。即ち斯う考へて來ますと、子供を道徳的に善良なるものに造り上げるには動作の習慣も大切であります、眞に善良な子供を造り上げるにはその外に強い正しい感じの習慣を養ふことの大切なることが分ります。只に子供が意志の力で悪い事をしなくなるやうに造るよりは悪い事が出來ないやうな心に育てなければなりません。

そこで一般に此子供の習慣——癖、動作の上でも、知識の上でも感情の上でも同じであります。癖と云ふものはどうして出來て來るか。癖の出來てくる條件を少し數へて見たいと思ひます。古來學者が習慣養成の條件として擧げて居りますのは大きく分けて三つあるのであります。尤も之れは

大人に就て言ふて居りますが、第一は最初の決心が大切である、其習慣を自分が得やうとする初一念、第一の決心が非常に固くなければならぬと云ふのであります。第二は其付けやうと思ふ癖、自分で得やうと思ふ習慣は始終之を續けて行かなければならぬ、長く續けて何時までもやつて居なければならぬと云ふことであります。第三は其習慣が付いてしまふまでは決して例外をしてはいけないと云ふことであります。例へば子供は楷書を教へましても上の線を眞直に引いて横とも眞直に引くと云ふやうに筆の動き方の習慣を付ける。眞直に引かうと云ふ初一念を充分に固くする。どうでも宜いと云ふやうなことでなしに眞直に引かなければならないと云ふ一念を非常に強く有たせる。さうしてそれを毎日續けなければならぬし、それをやつて居る間は他の行書だの、草書などは教へない。即ち付けんとする習慣に對して例外をしな

い。此三つの事が大切であると云ふことを言はれて居るのであります。

處が此習慣養成の三要件と云ふものを子供の場合に就て考へて見ますと、成ほど大人でありますならば自分で斯う云ふ癖を付けやうと思ふのでありますからして初一念と云ふものが非常に働くのであります。けれども子供の場合に於きましてはまだ此決心の能力も確乎として居りませぬから、此の第一要件を子供に要求することは出来ない。成ほど一通りの決心をさせるやうな約束をさせることもありませうけれども、併しこれは當てになつた話ではない。明日から必ず早起するやうになさい、さう云ふ併を付けなければいかぬと頻に話をすれば、子供の方でもそれが自分の身體の爲めにも宜いことであると合點し、お母さん明日から早起をしますと約束することはしましうが、それもそんなに當てにし得べきものではない。後

に子供が破つた時に坊は何月何日斯う云ふ約束をしたではないか、已にさう約束をして居るならばそれを破つてはいかぬと責めました所で、子供が約束をするとか、決心をするとか云ふやうな力は元來弱いのでありますからして、さう云ふ大なる要求をすることは出来ないであります。然らば子供の現場ではどうしたら宜いか、子供に對して初一念と云ふものが要求し得ないとすれば、それに代へるに何物を以てしたら宜いかと言ふことになりません。私は之を周圍と云ふ言葉で廣く言現はしたいと思ふのであります、是れから其周圍と云ふことに付て御話を申上げて見やうと思ひます。要するに此教へない教育の最大要件は周圍の問題なのであります。

## 二

そこで子供を中心にして周圍と云ふことを考へて見ますと、大別して三つになります。第一は

社會が子供の周圍となる。東京に居る子供、田舎に居る子供と云ふやうに分けまするならば、東京市と大阪市と或は田舎と云ふものは子供に取つては社會的周圍が違ふのであります。子供も社會の一員でありまして、家庭の中に居りますと同時に社會に出て遊び、或は學校に通學の途中社會を通ると云ふことになれば、社會と云ふものの子供に對する影響は非常に大きい。世間では往々教育と學校の役目であるが如く考へ、又もう少し進んだところで家庭教育位のこと考へられて居りますけれども、少くとも教育の三分の一と云ふものは社會がすると考へなければならぬのであります。次には天然が非常に影響して來るのであります。子供が山國に住つて居るとか、海邊に住つて居るとか、暖かい土地に生れたとか、北の方の寒い國に生れたとか、云ふことが子供に及ぼす影響は非常に多いのであります。一體四季の變化なども子

供に著しく影響を及ぼすのでありまして、デキスナルと云ふ人などは氣候及び天氣、降雨と云ふやうなことが子供に影響を及ぼすことをいろ／＼調べて居ります。それから第三は家庭であります。今日は特に此の家庭を中心にして申上げやうと思ふのであります。

元來此いろ／＼の周圍が子供にどう云ふ風な關係で影響して來るかといふことを考へて見ますと先づ三種有るやうであります。その第一は模倣性即ち眞似であります。

一體此眞似と云ふことにはいろ／＼程度があり種類がありまして、普通には周圍の物を倣はう、眞似しやうと云ふ考があつてするのであります。又子供自身は全く何の氣も無く、何の受取らう眞似しやうと云ふ事も考へないのに周圍が子供に働いて來る場合があります。それは即ち心理學の方で言ひますと暗示と云ふことになるのであります。



暗示と申しますのは御承知でありませうが、普通催眠術の場合に使用されて居るので、或一人の者に催眠術を施しましてそれから其の被術者へ色々命令を與へること、それを暗示を與へると云ふのであります。あなたの右の手は曲つたなりで迎も上りませんと云ふ暗示を與へますると、此人は別に何も考へるでもなく理窟を思ふのでもなく、決心も注意も意思も何も無いのでありますけれども、唯其の暗示が働いて手が上らなくなつて仕舞ふ。又あなたの腕に針を刺しても痛くないと云ふ暗示を與へますならば針を通しても其人は少しも痛みを感じない。さう云ふ風に暗示と云ふ言葉は催眠術の方では催眠術を掛けられた人が、何でも此方の言ふ通りに化せられて仕舞ふと云ふ意味に使つて居るのであります。所が暗示と云ふものは何も催眠術を施す場合にのみ限りませぬので、平常にも始終受けて居るのであります。例へば大人

でも時々有ることではありますが、大勢人の集つた場合に誰か一人欠伸をする。さうすると自分も遂に欠伸びをすることがある。又學校などに大勢集つて居ります時分に、一人が笑ひ出すと云ふと別に何の理由とも知らずに外の人も一緒に笑ひ出して仕舞ふ。向ふから怒つたやうな顔をした人が來ると云ふと、何故とも知らないけれども、今迄ニコ／＼して居た自分の顔が肝癩面になつて仕舞ふ、と云ふやうなことは能く有ることでありまして詰り相手の人の様子が此方に移つて仕舞ふのであります。それが子供の場合は特に著しいのであります。それからもう一つ、子供が周圍の影響を受けるには、少し固くるしい言葉であります、生理的影響と云ふのがあります。一體吾々には氣さへ確かであればどうか、或は心で斯う思つてさへ居ればどうか、自分の心と云ふものは確乎りしたもので、強いものであるやうに考へて居り

ますが、而も吾々の心は、周圍から受ける、此の生理的影響と云ふものと非常に大なる關係を有つて居るのであります。殊に吾々の氣分などは多くは自分の生理的狀態と大に關係して居る。人は笑顔で居なければならぬ、常に快活でニコ／＼して居なければならぬと云ふことを知つて居つてそれを實行しやうとしても、生理的に何か障害があります時にはどうも心が負けて仕舞ふ。さう云ふ風に此生理的關係と云ふものは吾々に非常な影響を及ぼして來るのであります。

そこで模倣とか暗示とか或は生理的影響とか云ふものに依て子供はいろ／＼周圍の影響を受けますが、其周圍と云ふものの中で、家庭からはどう云ふ風に影響を受けて來るか。是れからその御話に移るのであります。

家庭と云ふものを子供の周圍と云ふ意味に於て解釋しますと、いろ／＼複雑したものであります

すなはち物的周圍、及び人的周圍、といふ此二つに働いて來るのであります。物的の周圍と云ふのはどう云ふのであるかと言ふと、幾らもありませんが先づ第一には近所と云ふことであります。是は申し上げる必要もなく分りきつたことであります。詰り家の近所如何といふことが子供には非常に影響を及ぼして來るのであります。古い話で有名な話でありますが孟子のお母さんが子供の教育の爲に三度家を引越したといふ位であります。

それから次は其家の建物の具合と云ふものが子供に取つて物的周圍になるのであります。即ち光線の充分、不充分、空氣流通の良否、又は、日の當りの宜い暖かい家であるか、日蔭のやうな寒い冷たい家であるかと云ふやうなことが、今まで醫者の方から衛生上の問題として、言はれて居つた以外に、物的周圍の一要件として子供の心に大なる影響を及ぼして來るのであります。一體光線や

温度や、空氣の清汚が人の氣分に影響を及ぼすこととは大變なもので、若し其家が之れ等の條件に缺けて居るならば氣分教育の大部分は全く失敗に歸して仕舞ふのであります。之れは又子供の腦の力にも大に關係すること、其の一例を申しますと近い頃亞米利加の或人が多くの學校の教室に就て其温度をいろ／＼に加減して見て、寒暖計何度の時間には學業ほどの位出來る、何度以上の時には生徒の注意は如何なる状態になるかと云ふ類のことを調べて見たのであります。さうして其の結果室内的温度が子供の學業若くは行儀等に如何に大なる影響を及ぼして來るかといふことが明確に證されたのであります。

其次は家の中に用ゐます道具若くは家の裝飾品の類が、やはり非常な影響を子供に及ぼすのであります。例へば掛物や額を一つ掛けて置くにしましても、それは餘程いろ／＼の問題に影響して

參ります。勿論之れは大人の方で裝飾の目的を以て掛けるのでありますからして、之を子供の教育の方からばかり論じて仕舞つては餘り殺風景な話になるのであります。併し之れも教育の見地より考へて見まする時には、大に注意を要することでありませぬ。但し、こゝで考へますことは只に其書なり畫なりの意味内容に關していふのではありませぬ。成ほど是れも非常に大切な事で、掛物に書いてある悪い辭句、悪い繪が之を見る子供に悪影響を及ぼすことは言ふまでもないが、それは意味を了解しての話で、即ち已に教へる教育の部に屬します。けれどもそれでなしに唯掛物に現はれて居りまする筆力、字畫若くは表装の色合、或は額の形等、即ち其中に如何なる意味のことが書いてあるかと云ふ問題でなしに、單に形の上の諸點が子供に非常な影響を及ぼして來るのであります。置物にしましても亦活花にしましても、植木にし

まして、皆やはり同じ關係を有つて來るのであります。こゝにいふ事が如何に子供の心に影響を及ぼすかと云ふことは平常は餘り感ぜぬけれども、假令お正月などによく分ります。家の間毎に輪飾りを掛ける、或は今まで掛けてあつた掛物を取換へて大切な大きな掛物をかける、或は今まで掛けてあつた多少萎びた花などを取除けて新しき花と活け換へる、或は塵埃の爲めに汚れて居たのを掃除してきちんとすると云ふやうな時には、子供の心に非常な變化を來して、昨夜まで暴れて居つたのがいやに大人しく濟し込んで妙に改まつて仕舞ふと云ふやうなことがあります。成ほどお母様なり、お父様なり、お正月になつたら大人しくなければならぬ、お正月には大人しくするものであると云ふことを教へた關係も大に與つて力はありませうけれども、又一方には正しい周囲の規律が子供に暗示を及ぼして來るのであります。

### 三

それから次には家庭に於ける人的周圍に就て申上げて見たいと思ひます。即ち家の中に居る人がどう云ふ風に子供に作用して來るか云ふ話に移るのであります。但し家内の人々が子供に何か教へやうとして居る時のことは茲には申しませんで、そんなことを少しも考へて居ない場合に、しかも非常に影響を及ぼして來ることを申し上げるのであります。

第一は家内の人の顔色であります。學校の教育でも此事は非常な問題でありまして、小學校の教育として先生の教へ方が巧いか巧くないか、先生の言はれる話が宜いか悪いか、教科書に書いてあることの宜いか悪いかと云ふ類の問題の外に、先生の教壇に立たれた時の態度、之れを教育の方では教容と言ひますが、其態度が非常に重要なのであります。極端な例ですが、先生が教壇に立つて

人は眞面目でなければならぬと云ふことを言ひながら、自身が頗る滑稽の態度を示されて居たならば、その教訓の力は態度が子供に與ふる暗示の力を以て帳消しにされて仕舞ふ。さう云ふ風に吾々の顔色、家内の態度と云ふものが子供に知らず／＼の中に非常な影響を與ふるやうになります。朝人に逢ふた時分に向ふの人がニコ／＼した人であつたならば此方も其日一日は愉快であるけれども、其人が陰氣の人であつたならば此方もそれに引込れて陰氣になつて仕舞ふ。又是れは何處かで有つた話でありませんが無い話かも知れませんぬが、或人が朝早く起きて郵便局に行つた、所が局から顔を出した官吏が非常な肝癪持ちで、短氣な人であつて、朝早く此の方が郵便局に行つたものであるから眠い所を起されたので、非常につけんどんに擧面をして應對をした。其爲めに其人もやはり厭やな氣になつて擧面をしながら其處

を出た。さうして町に出て來ると向ふから知つた人が來たけれども、郵便局で怒り付けられて氣がむしやくしやする時であるから、其人に碌な挨拶もせないで行つて仕舞つた。すると第二番目の人も不快を起して其次に逢つた人にやはり擧面で挨拶した。さう云ふ風に郵便局の受付のものが怒り付けた爲めに其町中が一日肝癪面になつて仕舞つたと云ふことであります。廣い社會、廣い都會等でさう云ふことがあると大變なことでありますけれども、學校などにはこれが非常に有るのであります。生徒が大勢集つて居る所に校長さんが入つて來られる、其時に校長さんが笑はうが、厭やな顔をして居られやうが、眉間に八の字をよせて居られやうが、教授としては別に何んでもないことでありますけれども、その先生がニコ／＼として生徒の一人にでも言葉を掛けてくれると云ふ具合であれば、其一日中、學校は非常に氣分の宜い穩

かな學校がくかうになれる。けれども朝來あさきた時に先生せんせいが何か自分じぶんの家に面白くない事ことでもあつて、學校がくかうに来きてから其餘そのよ憤ふんで以もつて生徒せいとに碌ろくな挨拶あいさつもせないやうである、たとへいくら先生せんせいが修身しうしんの時間じかんに、人間げんは氣きが軟やわらかでなければならぬと骨ほねを折をつて教をしへられても、最初さいしよの顔かほいろが元もとになつて一日いちにち厭いややな日ひになつてしまふ。それ故ゆゑに學校がくかうをニコ／＼學校がくかうにするか、肝癢かんしゃく學校がくかうにするかと云ふことは詰つまり校長かうちやうや先生の顔付かほつき次第だいでどうにでもなる。況いはんや是これが家庭かていと云ふ極ごくく狭せまい所ところに於おきましては非常ひじやうな影響えいぎやうを及およぶのであります。能よく有あること、雇人やうにんなどが大勢おほい集あつつて、今日こんにちは御主人ごしゆじんは機嫌きげんが宜よい、イヤ何なんだが今日こんにちは怖こはい顔かほをして居をると云ふやうなこゝとで、其店そのみせが愉快ゆきわいな店みせになつたり陰氣いんきになつたりする。又朝起またあさおきて子供こどもがお早はやうと言いつて親おやの所ところに行いつた時に、お父とうさんなりお母かあさんなりが其子供そのこどもに對たいします顔付かほつき一つで以もつて其子供そのこどもの一日いちにちの氣分きぶん

と云ふものを非常ひじやうに支配しはいするのであります。其次そのつぎには顔かほやぢつとして居をる姿等すがたうの外ほかに舉動きやうどうがやはり非常ひじやうに暗示あんじ力を及およぶのであります。先程さきほど催眠術さいみんじゆつの時の例れいに申上まをしあげましたやうに催眠術さいみんじゆつを向むかふの人に掛かけて置おきまして右みぎの手てを舉あげなさいと言いへば、其人そのひとは右みぎの手てを上げらる。又またいろ／＼精神せいしん病びやうの方ほうにもさう云ふ風ふうのことが幾いくらも有ある。即ち相手あひてのする通とほりどうしてもせず居をられぬ氣狂ききやうがあるものであります。此方こつちで頭あたまを搔かく眞似まねをすると向ふでも其通そのとほりに頭あたまを搔かく。それから聞いて見ると私わたしはそんなことはすまいと思おもつて骨ほねを折をつてつとめるのだけれども、ついで人のやる通とほりにやつて仕舞しまふのであると云ふことであります。是これは氣狂ききやう若わかくは催眠術さいみんじゆつに掛かつた人の話はなしでありますが、さう云ふ状態じやうたいは或低あるひくい程度ていどに於おいては總すべての人に皆みな有あるのです。家内かないのものが非常ひじやうにぞんざいな、そゝつかしい人ひとでありますと、其家そのいへの子供こどもはやはり

そゝつかしくなつて仕舞ふ。あの子供は親の様子に能く似て居ると云ふ様な事を言ひますが、それは何も親の方で自分の様子を似させ様と思つて子供を仕込んだ譯ではない。子供の方でも親の様に似なければならぬと骨を折つたでもないけれども、自ら親の舉動に子供が化せられて仕舞ふのである、それ故に沈着なる親を持つて居る子供は沈着の性質を帯びるし、愚圖／＼な家の子供はやはり愚圖になる、と云ふやうに、周囲の人の舉動が非常に影響を及ぼして來るのであります。

それから其次の大切なるものは言葉であります。家庭に於きまして親たり、姉たり、兄たるものは使ふべき言葉の注意を細かにしなければならぬと云ふことは多く言はれて居るのであります。是れもやはり先程の掛物の問題と同じやうに多くは言葉の意味内容に就てのみ注意されて居ます。是れも言ふまでもなく大切なことであります。併

し言葉に就ての注意は意味、内容ばかりではない。その言葉の使ひ方即ち音の速さとか晚さとか或は聲の調子とか云ふやうなことが矢張り大に子供の心に影響するのであります。人間は快活でなければならぬ、坊は活潑におなりと云ふやうなことを低い愚圖々々とした聲で言つた時には子供は成ほど活潑でなければならぬと云ふ意味は了解するかも知れませぬが、現に不活潑の聲を聞いて居つてはどうも活潑にはなれない。或は女の子などに優しくおしよと云ふことを優しくしろいとでも言ひましたならばどうでありませう。殊に人の氣分に及ぼす相手の人の音の高さと云ふものは非常な影響を及ぼすのであります。此中には音楽に達しておいでのお方も澤山お居でにませうが、ピアノにしましても、オルガンにしましても、音楽の音と云ふものゝ聴衆に與へる影響は、其歌の内容と云ふやうなことばかりではなくして、高さ低

さの音色と云ふものが非常に人に影響を與へる。心理學の方では人の感情を測つて見る器械がございまして、例へば吾々が腹を立つ時は血液が早く廻るとか、氣がザワ／＼して愉快な時には呼吸が早くなつて血液もやはり早くなる、氣が沈んでしまつて悲しい時には血液が早く廻らないと云ふやうな點からして、血液の循環及び脈搏の數等に依つて其人の感情を測量することがある。そこで一方で音樂を弾いて其人に之を聞かせる、其時に脈搏を測つて見ますると如何に樂器の響きの高低が人の感情に影響して來るかといふことが明に分るのであります。吾々がお互に會話しまする時にもその發する音の高さが非常に大切なものであります況や家中で始終使つて居る言葉の調子が子供の心に及ばず關係と云ふものは著しき問題になつて來るのであります。是れは外國にあつた事で或本に書いてあるのでありますが、お母様が子供に詩

を吟じて聞かせた、誰の詩でありましたか子供には逆も分らぬやふな大層蒙らい詩でありました。さうするとお母さんが宜い聲で節面白く吟じた爲めに子供は嬉しがつて實に面白いものだと思つて居つた。そこでお母様がそれで止めれば宜かつたのであります。今度は餘計な御世話で以て其詩の意味を説明してやつた。是れは人生のどう云ふ問題に觸れて居るの、宗教上の斯う云ふ意味を歌つたものであるのと精しく説明した成る程お母さんには詩の韻節よりも詩の内容が氣に適つて居られるのですから説明も宜いだらうけれども、子供には迷惑至極でそんな六かしいことは厭やだ。今まで意味なしで聞いた時には面白かつたけれども講釋を聞かされた時には厭やになつて仕舞つたと云ふ話があります。さう云ふ風に吾々の言葉を出しまする時には言葉の内容とか意味とかの外に音の形式も非常に大切なものになります。



聖書の箴言に軟らげき言葉は憤りを止める、荒ら  
き言葉は怒りを勵ます、とありますのはその言葉  
の意味のことでもありませんが又實に能く此の  
場合の心得にも當るのであります。向ふの人が怒  
つて來たから此方で謝つてそれを宥めやうとする  
時分に、御免なさいませ、と同じ言うにしまして  
も、やさしく言へばこそよいので荒々しく言つた  
時には、向ふの人は却つて益々怒つて仕舞ふ。其  
の反對に非常にむきになつて怒つて居る人に向つ  
て婉曲に軟かい言葉使をさへすれば、少々位向ふ  
の悪口を言つても怒が解けるかも知れませぬ。  
斯う風に通ての教育の内容で子供を感化する  
と云ふことは教へる教育の受持であります。家庭  
に於ては教へる教育も無論しなければなりません  
が、多くの場合には此周囲と云ふものが注意され  
ずに居るのであります。さあ是れから御話をして  
上げます、是れから坊の教育をして上げるから教

育を受ける準備を爲さいと言つて、お母様が子供  
に差向ひになつた時ばかり、お母様が子供の教育  
の影響者と考へたら大間違になります。朝から夜  
までそれこそ寝ても起きてても子供と一緒に居る間  
自分の一舉一動は總て教育の影響を小供に與へる  
と云ふことになるのであります。

然るに其周囲の影響で子供を感化する程度が低  
い爲めに、吾々は子供に向つて種々の訓誡即ち教  
へる教育を與へる必要が起つて來る。例へば子供  
に孝行者の話をして子供は面白く聞いて居る、さ  
うして其の話を結ぶ時に、だから坊やは孝行な子  
にならなければいけないと言ふ云ひましたならば  
即ち、訓誡に移つたのである。處でかゝる訓誡の  
言葉を添へなければならぬと云ふのは、詰り今  
まで長く話をしたことが子供に充分に影響を與へ  
て居ないから、訓誡と云ふ極めて下手な方法で子  
供に教へ込むことになるのであります。で實際を

考へて見ると吾々は子供に對して、どうも此の訓  
誠の言葉が多過ぎはしないかと思ふ。若し日頃  
子供に教へざる教育が充分に行届いて居るならば  
何もそう／＼事々に訓誠の手段を出す必要はない  
これは詰り眞の教育者としての自分の力が足りない  
いと云ふことを證據立て、居る譯になります。處  
が又、それだけならば未だよろしいが、實際上、  
餘り訓誠が多過ぎると其の爲に却つて教へざる教  
育の効果が減つて仕舞ふことがある。假令ば氣持  
の宜い室にでも連れて來られて子供が愉快に大人  
しくして居る。即ち周囲の影響を充分に受けて子  
供が大人しくなつて居る、其時に坊は大人しくし  
なければいけないよとでも、餘計なことを言はれ  
ると、子供は却つて暴れ出して仕舞ふ。詰り知ら  
ず／＼に受けて居る周囲の影響が意識的に移つて  
來て、そのためにふだんの地が現はれてくるので  
ある。先程御話をしましたやうに孝行の話を聞い

て子供が充分感じて居る所に、だから坊やも孝行  
をしなければならぬと言はれると、子供の方では  
又始めたなと思つて、今迄折角受けた感じが半分  
は無くなつてしまふ。處が訓誠丈けならばまだよ  
いのでありますが、それがもう一つ嵩じて來ると  
お小言になる。昔支那の聖人の時代には法三章と  
云つて法律が三つしか無かつた、其他は何も言は  
ないでも穩やかに治つて居たと云ふことである。  
家庭に於きましても若し教へざる教育が日頃行届  
いて居りますならば何も改めて訓誠小言を澤山使  
ふ必要はなくなるのであります。一體叱ることの  
澤山にあると云ふのは自分の日頃の教育が如何に  
も不充分であると云ふことを現すのであります。  
段々いろ／＼な事を申上げましたが、要するに  
教へない教育は子供に適當な周囲を與へると云ふ  
問題に歸するのであります。そして是れが、子供  
の品性を固める基礎になるのであります。